

〈研究ノート〉

夢や希望の実現に向かうキャリア教育の要としての 学級活動（３）の在り方 －総合的な学習、特別の教科 道徳との連携を通して－

新川 靖^{*1}

Key words: 特別活動、学級活動、キャリア教育、総合的な学習の時間、道徳科

1 はじめに

平成 29 年告示の学習指導要領において、特別活動の学級活動では、新たに「（３）一人一人のキャリア形成と自己実現」という項目が立てられた。学習指導要領改訂に向けた中教審答申（2016）では、これまでのキャリア教育における指導の課題を、「将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、『働くこと』の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないか」と指摘し、キャリア教育を効果的に展開するためには、特別活動の学級活動を中心として、各教科等での指導を生かしながら、学校のエデュケーション全体を通じたキャリア教育の展開を求めている。では、児童に、現在や将来に希望や目標を持たせ、生きる意欲や態度を形成していくために、学級活動はキャリア教育の中心として、どのような工夫・改善をしていくことが重要なのであろうか。

本研究では、1 時間の学級活動の工夫・改善とともに、事前の活動に総合的な学習の時間、特別の教科 道徳（以下道徳科）を設定し、学級活動（３）と連携する授業を構想していく。

2 学級活動（３）「現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成の学習過程」の工夫

学級活動では、「小学校学習指導要領解説 特別活動編」（文部科学省、2017）において、学習過程を①問題の発見・確認、②解決方法の話し合い、③解決方法の決定、④決めたことの実践、⑤振り返りと示している。ここでは、1 時間の学級活動で扱う①～③の学習過程において、キャリア教育の効果的な展開に向けてどのような工夫・改善が求められるかを考えていく。

（１）問題の発見・確認について

この場面では教師が年間指導計画に沿って題材を提示する。ここでは、夢や希望といった将来の姿に対する児童の願いを明らかにするだけでなく、理想の実現に向けて自分たちをどのように変容させていけばよいかという課題意識を持たせるようにする必要がある。

（２）解決方法の話し合い

どのような夢や理想にも、その実現に向けて必要な能力がある。その能力と自分の現状を比較し、問題点を見つけ、学級で交流し共通点を見つける。そして、学級全体でアイデアを出しながら共通する問題についての解決方法について考える。その際、児童の考えをもとに考えていく他の学級活動の内容とは異なり、生活や道徳科、総合的な学習で知ったり交流したりし

2018 年 1 月 28 日受理

^{*1} Yasushi SHINKAWA

関西福祉大学

た人々の様々な生活習慣や立ち居振る舞いなどの生き方も含めて考えるようにしたい。夢や目標の実現に向けた手立てを考える活動が現実社会とのつながりを持って考えられるだろう。

(3) 解決方法の決定

話し合ったことをもとに、自らの問題に応じた方法を自己決定し、実践していく。ここでは、自らの状況を客観的に見たり、成長を実感したりできる工夫をしたい。例えば、加藤(2015)が示唆するように、取り組みたいことを「とてもがんばればできる」「少し意識したらできる」「がんばらなくてもできる」の3つにレベル分けて自己決定させ、取り組ませることも考えられる。

3 総合的な学習の時間、道徳科との連携

総合的な学習や道徳科では、学級活動(3)との連携がどのように工夫できるだろうか。

総合的な学習は、学校ごとに目標や内容を設定して行う学習であるため、取組は様々である。しかし、各校の取組においては、地域の物的・人的資源を有効に活用する工夫を行うため、地域や施設等の社会の人とのかかわりが生まれてくる。例えば、地域の人材がゲストティーチャーとして児童の前に立って説明等をする場面も少なからずある。これらの場合、招聘されるのは、地域社会に貢献していたり、職業人として自らのキャリアを確立していたりする人物であることが多い。児童は、探究的な学習の中で、ゲストティーチャーに調べたい内容についてインタビューしたり、体験活動をしたりしてかかわりを持つ。しかし、実際には、ゲストティーチャーの振る舞いや地域、職業に対する思いや考え方などを通して、その生き方にもふれている。このかかわりこそ、「生き方」という視点で振り返らせることで、学級活動へとつながっていくのである。

一方、道徳科は、道徳的判断力、心情、実践

意欲及び態度といった内面的な資質の育成を目指す学習である。道徳的な価値として、現在や将来への希望や目標を持ったり実現したりすることにつながる項目がある。この授業と学級活動とを関連付けて配置することは、有効な方法の一つである。また、道徳科における教材には、人物の生き方が描かれている。教材に描かれた生き方について、学習活動を通して、そのすばらしさに目を向けさせることで、自分の中に取り入れてみたい行動や考え方といったいわば「まねしてみたい」部分に気が付くことができる。

2つの学習において、「現在や将来に夢や目標を持つ」ための学級活動と連携していくことが効果的である部分を取り上げた。共通している部分は、他者の生き方に学びあがれを持つということである。それぞれの学習固有の特質の部分と共通の部分を生かしながら学級活動と関連付けることが連携のポイントとなるのではないかと考える。

4 総合的な学習、道徳科と連携した授業構想

小学校高学年の学級活動(3)「ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成」の授業について以下のように構想した。

題材「夢を描こう ～未来の自分に向けて～」

本時のねらい 将来の自分の姿に向けて、今の自分をどのように高めていくとよいのか考えて、主体的に実践しようとするようになる。

表１ 事前の活動

学習	内容
道徳科	○「ヘレンとともにーアニー・サリバンー」 「夢に向かって確かな一歩を」（文部科学省「私たちの道徳」）より高い目標の実現に向けてくじけずに努力しようとする態度を育成する。 ○道徳のポートフォリオから、道徳教材の登場人物の生き方で心に残った点を、ワークシートに記入する。
総合的な学習	○「僕らの川を守ろう」の単元のフィールドワークで講師を務めたG Tや川の清掃ボランティアの方との交流を通して、その生き方について心に残ったことを活動ごとにワークシートにまとめておく。
授業外	○将来の夢についてのアンケートを実施する。 ・どのような夢を持っているのか。 ・夢をかなえた自分はどのような姿（思い、行動）となっていたいか。

表２ 本時の展開

児童の活動	指導上の留意点（・）
1 アンケート結果を基に友達がどのような夢を知る。	・アンケート結果を紹介し、みんなが将来に夢を持っていることを紹介し、本時の題材について興味を持たせる。
2 将来の自分の姿に向けて今の自分を高めていきたい点について考える。	・アンケート用紙を返却し、今の自分と目指す自分の姿を比較して、課題だと感じることやこれから取り組んでいきたいことについて考えさせるようにする。
3 高めていきたい点について交流し、共通するものを見つける。 ・最後まであきらめない。 ・誰とでも仲良くできる。 ・学習を頑張る	・児童自身が自分を高めていきたいという資質や能力についてあげさせ、共通するものをまとめていく。
4 学級で見つけた共通する「高めていきたい点」について、どのような取組や心がけをするとういか話し合う。	・自分の経験だけでなく、事前の総合的な学習の時間や道徳科で心に残った「生き方」「考え方」も出させながら、集団で課題の解決方法について考えさせる。
5 自分の課題にあった「取り組みたい工夫」を決め、発表し合う。	・具体的な方法について話し合った中から自分にとって必要だと思うものを自己決定させる。
6 学習のまとめをする。	・事後の活動についての見通しを持たせるようにする。

事後の活動

- ・自己決定した取組を実践し、毎日振り返る。
- ・毎週、項目を見直し「できること」「もう少し努力がいること」「とても努力がいること」に分ける。

５ まとめ

本研究では、学級活動を中心にした横断的なカリキュラムづくりとともに、学級活動そのものの改善の視点について考え、構想を示した。今後は、授業構想を実践研究していくとともに、発達段階に応じた工夫についても研究を進めていきたい。

【引用・参考文献】

- ・加藤明「かしこい子育て・教育・介護」『第20回「私」が毎日やれることは』の年賀状が来ます』、赤穂民報社、2015
- ・中央教育審議会「幼稚園、小学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」、2016、p56
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」、2017